（別紙1） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

<table>
<tr><th colspan="6">平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）</th></tr>
<tr><td colspan="2">名　前</td><td>垣花　シゲ</td><td colspan="3">所　属　医学部　保健学科　　職　名　教授</td></tr>
<tr><td>領域</td><td>業務ウェイト比（予定）</td><td>平成25年度　年度目標設定</td><td>業務ウェイト比（実績）</td><td colspan="2">平成25年度　年度末自己点検結果</td></tr>
<tr><td>教育</td><td>0.35</td><td>学部科目(看護学概論、生活援助看護技術Ⅰ、生活援助看護技術Ⅱ、生活援助看護技術実習Ⅰ、生活援助看護技術実習Ⅱ、看護システムと管理)を担当、生命倫理学をオーガナイズする。「生活援助看護技術Ⅰ、Ⅱ」では4年前から実践している教育方法：学生による看護技術のデモンストレーション、を継続する。博士前期課程では看護管理学特論、基礎看護特論を担当、保健学研究方法、保健学特論を分担、博士後期課程では国際看護学特論と国際島嶼保健学特論を分担する。</td><td>0.35</td><td colspan="2">設定した目標に到達した。</td></tr>
<tr><td>研究</td><td>0.35</td><td>発展途上国における医療従事者を対象とした院内感染対策および感染対策教育に関する研究を継続する。また、看護ケアの向上・開発に関する研究を学部学生・博士課程学生に指導し、国内外の学会発表・学会誌等への発表を行う。博士前期課程学生の研究費獲得に関する書類作成指導を積極的に実施する。</td><td>0.35</td><td colspan="2">発展途上国の医療施設・大学の看護学部・保健省を巻き込んだセミナーを開催した。研究科学生の研究結果を学会にて発表した。また、奨学金獲得を指導し、獲得した。チェンマイ大学、フィリピン大学、ラオス健康科学大学との交流協定締結準備委員会リーダーの一人として活動している。よって、目標を達成した。</td></tr>
<tr><td>社会貢献</td><td>0.10</td><td>1. 琉球大学医学部附属病院との教育・研究におけるユニフィケーションの推進をバックアップし、必要に応じてconsultingを行う。
2. 琉球大学医学会の庶務を担当する。
3. 琉球大学臨床研究委員会委員として会議に出席するとともに、臨床研究計画の審査を担当する。</td><td>0.10</td><td colspan="2">琉球大学医学部附属病院看護部の看護研究の指導を行い、成果発表にこぎつけた。琉球医学会の庶務担当及び臨床研究委員会委員は任期を終了した。また、沖縄県看護協会の認定看護管理者研修の運営委員および研修会講師として人材育成に関わった。よって、目標をほぼ、達成した。</td></tr>
<tr><td>管理運営</td><td>0.10</td><td>保健学科の学科長として学科運営会議の運営を行う。また、将来計画委員長、予算委員長、入試委員長、教員推薦委員会委員として将来計画の策定及び推進を行う。医学部・医学研究科・附属病院予算委員会、学務委員会の委員として管理運営に当たる。</td><td>0.10</td><td colspan="2">保健学科長は任期を終了し、引き続き前保健学科長として現学科長のサポートを行った。また、教授として運営会議に積極的に参加、入試委員会、学務委員会委員として保健学科、保健学研究科の運営に関わった。よって、目標を達成した。</td></tr>
<tr><td>進路指導</td><td>0.10</td><td>研究室3年次・4年次、博士前期課程学生の卒業後の進学、留学、就職に関する相談・指導にあたる。履歴書や願書の記載指導、紹介状の作成等をおこなう。</td><td>0.10</td><td colspan="2">研究室4年次に履歴書や就職試験の小論文作成を指導した。研究科前期課程卒業生の大学教員公募書類作成の指導と推薦書の作成を行った。よって、目標を達成した。</td></tr>
<tr><td>計</td><td>1.00</td><td>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。
・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。
・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</td><td>1.00</td><td colspan="2">・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</td></tr>
<tr><td colspan="3">※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</td><td colspan="3">☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内公表に同意しない。</td></tr>
</table>

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）				
名前	高倉 実	所属	医学部 保健学科	職名 教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度 年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	共通教育科目（健康運動実技）を担当し，全学的教育に貢献する。学部担当科目（疫学，学校保健学，健康教育学，保健統計学，計4科目）を担当し，専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目（学校保健学特論・特演，保健学研究方法3回，保健学特論2回）を担当し，特に保健学研究方法は量的研究の進め方について講義を行う。大学院博士後期課程科目（保健学特別講義4回，健康増進開発学特論）を担当し，疫学的研究方法について講義する。Learning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文，修士論文，博士論文の指導を行う。	0.25	共通教育，学部教育，大学院教育について，各々の授業評価は良好であり，目標を達成した。 学部担当科目の「疫学」の講義にLMSのWebClassのテスト機能を使用して，演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果，本科目の期末試験の平均は高得点を維持している。また，学部教育「健康教育学」および「学校保健学」においてもWebClassを用いて指導した。さらに，大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」のオーガナイザーとして英語教材をWebClassに掲載して復習させるようにした。 今年度は4名の卒業論文および1名の修士論文を指導した。その他に，1名の博士前期課程大学院生，3名の博士後期課程大学院生の研究指導を行った。
研究	0.25	研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。外部資金を代表者として獲得し，応用健康科学に関する研究を学外機関との共同研究として継続する。日本健康教育学会学会誌の編集委員として学会誌を編集するとともに，関連学会学術誌の査読を行う。	0.25	指導した大学院生と共著の学術論文が日本学校保健学会賞を受賞した。 第45回沖縄県公衆衛生学会学会長講演を行った。 著書の一章を執筆した（沖縄における青少年の危険行動とソーシャル・キャピタル. イチロー・カワチ，等々力英美編. ソーシャル・キャピタルと地域の力. 日本評論社. 東京 2013）。 国際誌（査読有）に1編の学術論文を発表した。 国際学会（査読有）に2題（筆頭著者1題），国内学会に13題（筆頭演者1題）の研究発表を行った。 研究代表者として科研費（B)を獲得した。研究分担者として2件の科研費(B)を獲得した。 日本健康教育学会誌編集委員として4編の編集担当，国際誌J Adolesc (IF=1.882）1編の査読，国内学会誌の9編（1英文）の査読を担当した。
社会貢献	0.20	関連学会の評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県の各種委員会の委員や研修会講師等を務め，委員会活動に積極的に参加する。	0.20	関連学会の代議員（日本学校保健学会），評議員（日本疫学会，日本健康教育学会，日本民族衛生学会），沖縄県公衆衛生学会幹事 第45回沖縄県公衆衛生学会長 第12回九州地区健康教育研究大会メインシンポジウムコーディネーター（沖縄県教育委員会） 沖縄県福祉保健部「健康おきなわ21（第2次）」分野別検討委員会委員長 沖縄県福祉保健部「健康おきなわ21（第2次）」アクションプラン総括委員会委員 独立行政法人日本学術振興会委員会専門委員 沖縄振興特別推進交付金事業「健康行動実践モデル実証事業」のコアメンバーとして，キックオフカンファレンス，地域健康づくりセミナー，学校・地域説明会および学校・地域調査等を実施した。
管理運営	0.25	保健学研究科長としての管理運営活動を行う。部局長等懇談会や教育研究評議会をはじめとする全学的委員会，および琉球大学疫学研究倫理審査委員会などの全学的委員会，学部内各種委員会に積極的に参加する。	0.25	保健学研究科長として管理運営活動を行った。部局長等懇談会や教育研究評議会をはじめとする開催された全学的委員会にほぼ100%の出席率で参画した。その他の学内委員会にも積極的に参加した。 琉球大学疫学研究倫理審査委員長として運営・審査に当たった。
進路指導	0.05	学生や大学院生の進路について積極的に相談する。特に養護教諭を目指す学生のために教育委員会や学校教員から情報収集する。大学院生の場合，将来の進路に役立つようなTA活動を行う。	0.05	沖縄県教育庁の指導主事らと面談した。大学院生をTAとして活動させた。これらの教育研究支援活動への参画は，大学院生自身の実務能力や研究能力を高めるのに大変役立ったと思われる。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□ 学外公表に同意しない。 □ 学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）				
名　前		加　藤　種　一	所　属	医学部　保健学科　／　職　名　助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行う。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデーターの統計処理に重点を置く。共通教育では、運動・スポーツ科学演習（ゴルフ）を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行う。	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行った。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデーターの統計処理にも基礎的な部分では十分クリアした。共通教育では、運動・スポーツ科学演習（ゴルフ）を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行った。
研究	0.28	沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査を年内に行ため、調査計画、質問紙内容を検討中である。また、日本における現行の生命表と世代生命表の比較研究を行う。現在資料を収集中である。	0.28	沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する質問紙を作成し、プレ調査を実施した。その結果を集計し再度質問紙を検討中である。日本における現行の生命表と世代生命表の比較研究に関しては、明治、大正時代の年齢、性別死亡統計の資料入手が困難であり、現在資料を検索・収集中である。また、産業カウンセリングを実施していることから、統合失調症の青年の事例検討を行い、研究会で発表した。
社会貢献	0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行う。湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学（非常勤講師）を担当する。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたる。	0.27	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行った。湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学（非常勤講師）を担当した。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営した。
管理運営	0.05	平成26年度の大学入試センターの試験監督、前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。	0.05	平成26年度の大学入試センターの試験監督を担当した。琉球大学前期日程試験の試験監督等に従事する予定である。
進路指導	0.08	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、４年生（2名）、３年生（5名）の面接等による進路指導にあたる。	0.08	琉球大学ゴルフ部の4年生（2名）、3年生（5名）の就職に関する面接、情報提供等を行った。その結果、4年生1名は、企業に内定し、もう1名は、今年の公務員試験を受けることに至った。
その他	0.02	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める。県内外の大会への選手派遣、またゴルフを通した人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導する。	0.02	ゴルフ部において、週2回の練習指導を行い、全日本、九州学生ゴルフ選手権等に数名の選手を派遣した。その結果、九州女子学生ゴルフ選手権で優勝、全日本女子学生ゴルフ選手権出場、西日本新聞社杯争奪九州女子学生ゴルフ選手権で優勝など、九州女子学生の部4大会で優勝した。また、男子は、2013年九州学生ゴルフ連盟ステップアップ選手権で優勝、２位、3位に入った。その他県内学生選手権、学生ジュニアOPEN選手権などに多くの学生を出場させた。また、九州学生ゴルフ連盟と共催で九州各大学と沖縄県内大学生交流ゴルフ大会を3月に企画している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				□　学外公表に同意しない。　□　学内公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	照屋典子	所　属	琉球大学医学部保健学科成人看護学Ⅰ分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	【前期】 ・『緩和ケア論』、『がん看護論』では、シラバス作成を担当し、非常勤講師との調整を行う。 ・『がん看護論』では、「放射線看護」の講義を担当する。緩和ケア病棟見学実習についても、国立病院機構沖縄病院（緩和ケア病棟　担当医・看護師長）との調整を行う。 ・『急性期看護実習』は、8西、6東、7西病棟での各2週間（5名グループ×3クール）の実習を担当し、学生が受持ち患者への看護実践を通して、周手術期看護に関する知識・技術が習得できるよう指導・助言を行う。また、『成人総合看護実習』では、8西、6東、7西病棟で各1週間（5名グループ×3クール）を担当し、病棟管理やチーム医療の実際について学習できるよう、病棟師長、リーダー、メンバーとの調整を行う。 【後期】：講義では視聴覚教材、グループワークや事例検討、シミュレーション等を取り入れ、学生参加型講義を行う。 ・『成人看護学』では全体シラバス作成、「成人期にある人の健康（概論）」、「生活習慣に関連した成人期の健康障害」に関する講義を担当する。 ・『成人急性期看護』では「術前看護」の講義を担当する。 ・『看護総合実習』では、全体のオーガナイズ、並びに学生2名の個別指導を担当する。学生がより主体的に自己の学習課題が達成できるよう学生への助言、並びに看護系教員や実習施設との調整を行う。	0.33	【前期】 ・『緩和ケア論』、『がん看護論』では、シラバス作成担当し、非常勤講師との調整を行った。 ・『がん看護論』では、「放射線看護」の講義を担当し、緩和ケア病棟見学実習では、アドベンチストメディカルセンター（看護師長、チャプレン）との調整を行った。 ・『急性期看護実習』、『成人総合看護実習』では、耳鼻咽喉科・口腔外科、整形外科、消化器外科病棟において、計9週間×15名を担当し、学生とともに、受け持ち患者とそのご家族への直接的な看護ケアや教育等の実践を通して、実習指導を行った。 【後期】 ・『成人看護学』ではシラバス作成、非常勤講師との調整を行い、「成人期にある人の健康（概論）」、「生活習慣に関連した健康障害」、「成人看護学における看護倫理」「大腸がん、乳がん患者の事例展開」の講義・演習を担当した。 ・『成人急性期看護』では「術前看護」講義、及び「胃切除術を受ける患者への術前・術後の看護」についてシミュレーション教育を活用した演習を担当した。 ・『看護総合実習』では、学生全体のオーガナイズ、及び学生４名の個別指導、実習調整を担当した。学生は2名ずつ、自らが学びたいテーマ①糖尿病患者教育（外来、教育入院）、②大学病院における緩和ケアの実際（緩和ケアチーム活動、患者会、個別相談等のソーシャルサポー）に沿って実習を行った。授業評価では、専任看護師による横断的活動への同行、見学、参加を通して、有意義な実習ができたと好評価であった。 ・当研究科（博士前期課程）がん看護専門看護師（CNS）教育課程の認可申請に向けて、当該教授とともにカリキュラムの見直し、シラバスの再検討に関わった。今後は教授とともに講義を担当することから、6月、当該教授の推薦を受け、医学部准教授（学内）称号付与へ応募し、8月1日付で学内准教授の称号が付与された（任期 H27.7.31迄）。
研究	0.35	・H23年度 基盤研究（C）「沖縄県におけるがん患者の在宅療養支援ネットワーク構築に向けた調査研究」で訪問看護師を対象に実施した調査研究について、第27回日本がん看護学会（H25年2月）で発表したが、その内容をまとめ、学会誌への論文投稿を計画している。 ・昨年度、養護教諭を対象とした「子宮頸がん予防・啓発活動に関する調査」を実施したが、その調査結果について、第28回日本がん看護学会学術集会（H26,2/8-9）で発表を計画している（H25.8月エントリー予定）。 ・昨年度、基盤研究（A）「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」（代表：福岡県立大学　松浦賢長教授）の一環として実施した「卒後1年目看護師を対象とした看護技術支援セミナー」（H25.3/20）では、評価のためのアンケート調査を実施したので、その内容について、第33回日本看護科学学会学術集会（H25/12/6-7）にて、演題発表を計画している（H25.6月エントリー予定）。 ・H25～27年度 基盤研究（C）「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」の内定を受けたので、研究代表者として本課題に取り組んでいく。また、当分野の教授が内定を受けた H25～27年度基盤研究（C）「若年女性の子宮頸がん予防・啓発に向けたピアサポーターによる教育支援」においても研究分担者として、取り組んでいく。 ・今年度より、日本がん看護学会の専任査読委員となったので、その活動を行う。 ・昨年度より、当学科の看護系教員と医学部附属病院看護部との看護研究のユニフィケーションが始まっているので、今年度も引き続き、関わっていく。	0.35	・研究代表者として、本年度採択を受けた科研/基盤C「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」に取り組んでおり、現在、緩和ケアボランティアの養成プログラム作成に向け、緩和ケア病棟で活動されているホスピスボランティアを対象としたインタビュー調査を行っている。データ収集後、質的分析を行う予定である。 ・当分野の教授が研究代表者を務める科研/基盤C「若年女性の子宮頸がん予防・啓発に向けたピアサポーターによる教育支援」の研究分担者として、8月、県内の中部、南部地区にて、「子宮頸がん予防に関する市民公開講座」を実施し、その企画、運営、及び子宮頸がん全般に関する講話を担当した。 ・第27回日本がん看護学会（H25年2月）で発表した内容について、現在、投稿論文を作成中であり、年度内に日本がん看護学会誌への投稿を目指している。 ・第28回日本がん看護学会学術集会（H26,2/8-9）では、「養護教諭を対象とした子宮頸がん予防・啓発に関する調査」、「大学生を対象とした子宮頸がん予防啓発に関する意識調査」、2演題の示説発表を行う。 ・日本がん看護学会専任査読委員の活動として、来る2月、査読委員を対象とした研修会に参加する。 ・附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションでは、８西病棟のスタッフが取り組んでいる「喉頭摘出術を体験した喉頭がん患者の不安、苦痛に対する看護」をテーマとした研究の支援に関わっているところである。 ・福岡県立大学が代表を務める科研/基盤A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」では、県内9施設の新人看護師を対象として、3月（卒後１年目看護師）と9月（卒後6ヶ月看護師）に臨床看護師の協力も得ながら、「シミュレーション教育による看護支援セミナー」を開催した。これらの成果について、12月7日開催された第33回日本看護科学学会学術集会の交流集会にて、プレゼンテーションを行なった。フロアと活発な意見交換ができ、大学と臨床との連携による新人看護師育成に対する関心の高さがうかがえた。（本成果については保健科学研究会でも一部発表し、学内へ大学間連携事業に対する紹介の機会になったと考える。） ・「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」事業の一つとして、4月に採択となった科研基盤B「看護系合い学における発達障害傾向学生に対するサポートスペクトラム構築に関する研究」の研究協力者として、倫理審査に向けた準備や発達障害傾向学生のチェックリスト作成に関わった。
社会貢献	0.30	・今年度も、9月7日（土）、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催するが、その調整・企画・運営（共催する友愛会南部病院側との調整、当日の進行等）を担当する。 ・H24年度より、関わっている基盤研究A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」（代表：福岡県立大学　松浦賢長教授）の一環として、臨床ナースの教育力向上を目的としたシミュレーションセミナーを、H25 9月29日に開催する予定であり、その企画、運営を担当する。また、セミナー前後にはアンケート調査を実施し、評価を行う。 ・九州がんプロ養成基盤推進プラン の一環として、H24年度よりがん看護エキスパートナース養成コースを開講しているが、今年度も引き続き、その企画・運営に関わり、本コースでの講義を担当する。 ・H24年度文科省採択「大学間連携共同教育推進事業」『多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築（代表：福岡県立大学）』では、当分野の教授、本プロジェクトの特命助教とともに今年度も引き続き、琉球大学の担当者として、本プロジェクトの統一コード部会、研修調整部会に参加し、具体的な事業展開に関わる。 ・平成21年度文科省採択「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の“看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想”プロジェクトは終了したが、新たに、H24年度～7年間、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」の連携事業が開始となり、今年度も引き続き、琉球大学の担当者として、九州の看護系大学との交流、並びに共同研究（上記、科研A） に関わっていく。その活動の一環として、放送大学の国家試験問題解説にも関わる。	0.30	・9月7日（土）、友愛会南部病院との共催にて、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催し、その事前調整・運営を担当した。 ・九州がんプロ養成基盤推進プラン、がん看護エキスパートナース養成コース（臨床看護師対象）のシラバス作成、非常勤講師との調整・運営を行っている。10月開講した「緩和ケア特論」「緩和ケア特別演習」では、コミュニケーション、倫理的問題、高齢患者へのケア、悲嘆ケア、臨死期のケアに関する講義・演習を担当した。 ・大学間連携共同教育推進事業『多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築』では、当分野の教授とともに、授業科目のコード化、共有化に向けた取り組み、ナーシングキャリアカフェ事業、災害看護、国際看護に関する学生研修の調整等事業に関わっている。 ・「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」の一環である科研基盤A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」では、9月28日（土）県内9施設の新人看護師30名を対象に「シミュレーション教育による看護支援セミナー」を開催し、その事前調整、運営、及びファシリテーターを担当した。セミナー後、アンケート調査を実施し、9割の受講生が学習目標が達成でき、今後の実践に役立つと回答していた。（本成果については第33回日本看護科学学会学術集会の交流集会で公表した。上記参照） 　また、4月には、本事業の取り組みとして分担執筆に関わった「ケアリングに基づく看護技術支援マニュアル」がメヂカルフレンド社より発刊された。さらに、放送大学の国家試験問題解説にも関わった。
管理運営	0.00		0.02	・本学科看護コース学生4年次における看護師国家試験模擬試験の担当者として、3回実施した。学生への周知徹底、及び学生の協力により全員もれなく受験することができた。 ・初めて、離島（八重山高校）でのセンター試験監督を2日間にわたり担当したが、滞りなくスムーズな監督業務が遂行できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　　前	古謝　安子	所　　属	医学部　保健学科	職　　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	本年は2つの領域（在宅、慢性期）の教育を一人で展開させることになった。授業と臨地実習が前年の倍以上であり、非常勤講師やTAなど教育補助者を有効に活用し、2領域の内容を統合しながら教育効果を高めたい。授業や実習への既習学生の学びを活用する方法を取りいれる。	0.40	学部では2領域の授業と実習の運営、また大学院教育及び担当する前期学生の研究指導のため、附属病院看護部やｼﾐｭﾚｰｼｮﾝセンター等関係部署及び非常勤講師やTAを活用して教育効果を向上させることができた。また学部教育でﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵと講義ﾒﾓを活用して振返りを支援し、学習効果が上がった。
研究	0.30	科研費の最終年度であり、収集した量および質的データの解析を済ませ、論文作成し投稿する。また、研究対象地での研究成果の報告と、住民に対する「島内において介護や看取りができるには」の学習会を企画し実施する。	0.30	学会で最優秀ﾎﾟｽﾀｰ賞を受賞した。科研費で対象及び近離島住民を対象に研修会を2月に実施する。講師は内閣府の本年版高齢社会白書に紹介された生活力回復を促す介護の藤原氏である。また、農学・工学・保健学科による概算要求（長寿社会を支える人材育成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）は平成26年度内示を得た。
社会貢献	0.10	県や職能団体、市町村の委員会委員を兼業しており、積極的に参画する。また、県の看護教員養成課程や職能団体の研修講師等の兼業をとおして地域社会への貢献に努める。	0.20	県の看護教員養成課程の講師を15時間担当し、委員会委員長を兼ねた。看護職能団体では4委員会を兼務し、研修講師や評価等も担った。U市の地域包括支援センター運営協議会会長を担い、附属病院看護部との研究ﾕﾆﾌｨｹｰｼｮﾝでは3演題の研究指導を行い、本学科同窓会副会長を務めた。
管理運営	0.10	教授会や学科運営会議に積極的に参画し、研究科委員会や看護コース会議においては学会内の活性化が図れるよう積極的に役割を担う。	0.05	教授会や学科運営会議に積極的に参画し、研究科委員会や看護コース会議においては積極的に役割を担った。研究科の試験問題作成委員として役割を担った。
進路指導	0.10	指導教員ではないが、学生の健康相談や進路、就職に関する相談には、これまで同様随時対応する。	0.05	学部学生や大学院生の進路・就職相談に対応した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）				
名　前	豊里　竹彦	所　属	医学部	職　名　助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	現在のところ、担当科目はないが所属分野の精神保健看護学特論や精神看護学実習、その他の臨地実習で看護師教育に携わるとともに、卒業研究や修士研究に参加し、研究方法及び分析などの教育を行う。	0.30	・学部教育では、精神看護実習、慢性期看護実習や基礎看護実習などの臨地実習や卒業研究に従事し、臨床の場でリーダシップを発揮できる看護師の育成に携わった。 ・大学院教育では、昨年度より大学院教育研究の補助として承認され、精神保健看護学特論や大学院前期・後期課程の学生に研究指導を行った。 ・附属病院との看護研究ユニフィケーションのワーキンググループメンバーとして、臨床看護師の研究指導を行い、臨床研究の向上に寄与できた。 ・ケアリングに基づく看護技術支援マニュアル（メヂカルフレンド社）で心電図モニター・標準12誘導心電図の装着と管理について執筆(共著)した。 ・「Rセミナー」を2回開催し、大学院生への教育および教員のFDに務めた。 ・以上より、教育目標は達成できた。
研究	0.30	平成25年度科学研究費補助金（若手研究　B)「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究代表者として、地域住民の健康サービスに実践・応用できるようなケア・システム構築に努める。また、その他の外部資金（1件）の獲得及び国内学会誌への投稿（2件）、国外学会での発表（1件）を目指す。	0.30	・平成25年度科学研究費補助金（若手研究　B)「地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築」の研究成果報告書の作成と、成果の一部を9 th International Nursing Conference & 3rd World Academy of Nursing Scienceにて発表した。 ・上記以外で、9 th International Nursing Conference & 3rd World Academy of Nursing Science.で4演題の発表を行った。 ・原著論文2編（共著者）が国内雑誌に掲載された。 ・APACPHの関連部門であるEarly Career Networkのメンバーとなり、アジア圏の若手研究者との学術交流を図った。 ・以上より、研究目標は達成できた。
社会貢献	0.20	ED研究会の世話人として、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努める。	0.20	・沖縄心身医学協会の事務局および沖縄ED研究会世話人として、講演会の企画・運営に携わり、こころとからだの健康について地域への啓蒙活動や生涯学習の向上に努めることができた。 ・西原町介護認定審査会委員を務めた。 ・以上より、社会貢献目標は達成できた。
管理運営	0.10	オープンキャンパス実行委員として、保健学科の理念・戦略・使命が広く普及できるよう計画を実行する。	0.10	・オープンキャンパス実行委員として、保健学研究科の理念・戦略・使命が広く普及できた。 ・以上より、管理運営目標は達成できた。
進路指導	0.10	看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行う。また、看護協会などからの進学や就職の情報は、積極的に学生に提供する。	0.10	・看護師としての臨床経験や大学の教員としての経験を生かし、講義、実習や普段の学生との交流の中で就職や進学への助言や情報提供を行った。相談内容と件数は、在校生では進路相談が2件、対人関係の悩みが4件、卒業生は進路相談が2件、職場での対人関係の悩みが5件であった。 ・以上より、進路指導目標は達成できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				□　学外公表に同意しない。　□　学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）				
名　前	大嶺　ふじ子	所　属	医学部　保健学科	職　名　教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	助産学必修科目（周産期学・助産の理論・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・助産実習・助産統合実習計23単位）を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。助産実習における妊娠中からの継続事例への関わりを学生とともに7月より実施する。卒業研究として、あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。卒業直前技術演習に協力し、学生の就職前技術指導を行う。大学院前期課程４人の授業・研究に計画的に関わる。JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」第二フェーズ・第一次派遣（約1ヵ月）に参加、大学院生とともに助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に関わる。	0.40	助産学必修科目（周産期学・助産の理論・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・助産実習・助産統合実習計23単位）を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行った。特に助産実習における妊娠中から産褥期までの継続的な関わりを学生とともに7月より3ヵ月間実施した。4年次5人、3年次6人計11名の卒業研究として、妊産褥婦の調査等を学校や病院施設において実施、研究指導した。卒業直前技術演習に協力し、学生の就職前技術指導を行った。大学院前期課程４名の授業・研究に計画的に関わり2名の修了生を出した。治安悪化のため、終了となったJICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」最終派遣（約1ヵ月）に参加、大学院生とともに助産師現任研修の評価調査を実施、研究指導した。
研究	0.20	あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」第二フェーズ・第一次派遣（約1ヵ月）に参加。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に引き続き関わり、助産師の資質向上のための技術提供プログラム策定および評価を行う。研究論文の学会誌採択を目指す。平成24年度文部省科学研究費助成基盤研究C「開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究」の2年目の研究体制を維持する。東京大学医学部家族看護学分野客員研究員として、母子看護学の視点から研究内容の相互交流を図る。	0.25	治安悪化のため、終了となったJICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」最終派遣（約1ヵ月）に参加、大学院生とともに助産師現任研修の評価調査を実施した。「臍帯結紮時期が成熟児の胎外環境適応過程に及ぼす影響」母性衛生誌投稿中。平成24年度文部省科学研究費助成基盤研究C「開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催及び受講者情報システム構築の研究」の2年目の研究を維持。東京大学医学部家族看護学分野客員研究員として、母子看護学の視点から研究内容の相互交流を図った。
社会貢献	0.20	JICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」平成２５年度派遣に参加。助産師の資質向上のための助産師教育技術提供に引き続き関わる。平成25年度JICA地域別研修「公衆衛生活動による母子保健強化アフリカ・中南米・ミャンマー地域」の研修講師を努め,助産師の資質向上のための教育事業に関わる。母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員としての職責を果たす。	0.15	治安悪化のため、終了となったJICA＆琉球大学のプロジェクト「スーダン国南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト」最終派遣に参加した。平成25年度JICA地域別研修「公衆衛生活動による母子保健強化アフリカ・中南米・ミャンマー地域」の研修講師を努め,助産師の資質向上のための教育事業に研修講師として5回参加した。母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を2校で行った。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たした。日本母性衛生学会評議員・査読委員としての職責を果たした。
管理運営	0.10	保健学科教務委員長として、会議の議長をつとめ、職責を果たす。保健学科学務委員会委員の職責を果たす。琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員としての職責を果たす。全学学士教育プログラム委員会委員としての職責を果たす。指定規則改正後の助産師・保健師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。	0.15	保健学科教務委員長として会議の議長をつとめ、大学認証評価における自己点検評価における記述職責を果たした。ミッションの再定義ワーキンググループ委員、保健学科学務委員会委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員、全学学士教育プログラム委員会委員としての職責を果たした。指定規則改正後の助産師・保健師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざした。
進路指導	0.10	助産師コース選択学生4年次5人、3年次6人および大学院前期課程4人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行う。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供する。H24～指定規則改正後の助産師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を助産学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざす。	0.05	助産師コース選択学生4年次5人、3年次6人および大学院前期課程4人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行った。就職支援に関する情報をその都度、時期を失しないよう提供した。H24～指定規則改正後の助産師カリキュラムの各講義内容・単位変更の留意点を助産学生や各実習施設に説明しスムーズなカリキュラム移行をめざした。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				□　学外公表に同意しない。　□　学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）				
名　前	遠藤　由美子	所　属	医学部　保健学科	職　名　准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 （講義日程、資料、教授方法の工夫） 2. 卒業研究における教育法の工夫（演習の運営方法） 3.小児看護学教育への協力（講義分担担当） 4.臨床看護技術に関する教育への協力（演習分担担当）	0.35	1.ポイントを絞った講義ができるよう,図を効果的に用いた資料の提示法を工夫した。 グループワークや事例学習を積極的に行い、看護、助産の一連の看護過程が理解できるよう、工夫した。 母性看護学実習では、レディネスシートを活用し、実習前のレディネス状況に応じた個別指導に努めた。また、実習後の達成状況を把握するため評価表を用いて達成状況の客観評価に努めた。助産実習では、安全管理を意識しながら助産過程が理解できるよう個別指導を行った。 2.ゼミを定期開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授した。 また、大学院生(前期課程)に対しては、大学院指導教員を補佐し、研究概論の講義および論文作成を補佐した。 3.小児看護学の講義を一部担当した。 4.実施に向けた打ち合わせを行い、実施予定である（3.14,15）。
研究	0.40	1.科学研究費による研究の実施 （基盤B分担研究者：中高年看護職者のセカンドキャリア支援） （基盤C研究代表者：孫育て世代に対する包括的な健康支援） （基盤C分担研究者：開発途上国における日本型助産技術研修の継続的開催および受講者情報システム構築） 2.東北大、山形大との共同研究実施 （孫育てに関わる祖父母に関する研究） 3.研究成果の公表（論文、学会発表） 4.平成26年度科学研究費申請 5.中高年看護職者のセカンドキャリア研究会への参加	0.38	1.科学研究費による研究の実施（4件） 基盤B分担研究者として調査の実施及び結果分析にかかわった。 基盤C代表研究者として、調査の企画、実施、分析、まとめを行った。 基盤研究C分担研究者として、調査結果分析を補佐した。 平成25年度より採択された基盤研究Cの分担研究者（山形大との共同研究） として、調査準備を進めている。 2.東北大、山形大との共同研究実施 本年度は研究計画をすすめられなかった。 3.学会、論文発表による研究成果の公表 国内学会（共同4題）、学内研究会（筆頭1題）の発表を行った。論文発表（国内 共同1題）を行った。 4.外部資金獲得に向けた活動 科学研究費申請を2件（基盤B，挑戦的萌芽）行った。
社会貢献	0.10	1.琉球大学附属病院院内看護部研修への協力（看護研究） 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の個別指導 3.オープンキャンパスの運営支援（母性看護・助産学分野の紹介）	0.11	1，2.院内研修(看護研究)の企画、運営支援を行った。附属病院看護部の1部門 3課題の看護研究を担当し指導中である。また、研修講師を務めた。 3.オープンキャンパスの運営では、母性看護・助産学分野の紹介を行った。 4.来年度開催される日本遺伝看護学会事務局を担当し、学会準備を開始している。 5.タイ、ラオス、フィリピンの大学間交流協定調印式及びセミナー開催準備委員 として企画運営にかかわっている。
管理運営	0.05	1.生涯学習教育研修センター委員会への参画 2.附属図書館運営委員会への参画 3.資料館（風樹館）運営委員会への参画	0.06	1.生涯学習教育研修センター委員会への参画 2.附属図書館学術情報基盤整備、運営委員会への参画（1～2回／月） 3.資料館（風樹館）運営委員会への参画
進路指導	0.10	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 2.指導教員としての学生支援 （担当学生に対する履修指導、進路相談の実施、1.3研修支援、卒業研究発表会運営支援）	0.10	1.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導を行った。 2.指導教員として、担当学生の履修指導、進路、休学等の相談を行った。 進路選択や休学の相談を受けた学生に対し、個別対応を行った。 1・3研修および卒業研究発表会運営支援を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙１） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	玉城陽子	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	1.周産期学（7回）、母性看護実践学（演習4回、講義1回）を担当 視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。 2.助産診断・技術学Ⅱの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。 3.助産実習 6月より実習調整を開始、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、 10月・11月病棟での実習を実施。長期の実習であることから、学生の健康の自己管理についても指導をしていく。 4.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導	0.35	1.周産期学においては、模型を多用し理論だけでなく視覚的にもイメージしやすい講義を実施した。母性看護実践学では、病棟実習の経験の少ない学生に実際の臨床場面で使用している物品等の映像を取り入れた講義資料を活用した。 2.助産診断・技術学Ⅱでは、事例を用いたシミュレーション教育を実施した。 3.助産実習では、臨床指導者とともに学生個々の到達度に即した指導を実施した。学生も体調を崩すことなく期間内に実習を終了することができた。 4.卒業研究Ⅱでは学生2名を指導し、研究方法から発表・論文作成までの学部学生として学ぶべき基本的な研究指導を実施した。
研究	0.50	母乳栄養継続のために、妊娠期からの栄養摂取状況に焦点をあてて研究している。分析後博士論文として投稿する。 平成26年度科学研究費補助金の申請	0.50	母乳栄養継続のために、妊娠期からの栄養摂取状況に焦点をあてる研究と平行して、出生体重と妊娠期からの栄養摂取状況との関連についても分析した。その一部を4月に琉球医学会にて、1月に保健科学研究会にて発表し、1月現在論文執筆中であり、3月に投稿予定である。 平成26年度科学研究費補助金の申請を行った。
社会貢献	0.10	沖縄県助産師会の研修に協力する。 全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員であるので、他大学と協力しながら助産師教育の学部教育を今後どのように進めるのか、4年制以外の方向を考えるのか検討していく。 母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当する。	0.10	沖縄県助産師会の研修運営に協力した。 全国助産師教育協議会の総会に参加し、大学院教育を実施している機関より情報収集を行った。また、機関会員として2月の助産師国家試験問題検討を担当する。 母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当した。 琉球大学附属病院院内看護研修への協力としてシエントと整形外科病棟の看護研究指導を実施した。
管理運営	0.00		0.01	１月より、チェンマイ・ラオス・フィリピン大学との交流調印式およびセミナー準備委員会のタスクフォースメンバーとして役割を遂行した。
進路指導	0.05	卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。 卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。	0.04	助産学生４年次への就職相談を行った。 助産を選択した卒業生および助産師会会員に対して大学院進学への情報提供を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	辻野　久美子		所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学科･研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては、学生が看護職者に必要な知識・技術を習得し、資質の向上が図れるように担当科目の教授法を工夫する。大学院は、学生主導で授業を展開し、小児看護学に対する学生の理解が深まるようにサポートする。博士前期・後期課程の学生（各1名ずつ）に研究指導を行う。	0.40	目標を達成できた。 ・学部教育については昨年に引き続き、学生主導のプレゼンテーションや演習を実施し、学生評価も概ね良好であった。大学院博士前期課程では小児看護に関連のあるテーマについてのプレゼンテーション、英文抄読会を実施し、学習効果の向上に繋げた。後期課程ではオムニバス形式の共通科目の講義を担当し、専門分野の知識を教授した。 ・卒業研究指導を7名に、修士論文研究指導を1名に実施した。
研究	0.40	・学会誌への投稿を行う ・国際・国内学会において研究成果報告・発表を行う ・外部資金の獲得に積極的に努める(科研費、厚労科研補助金等) ・他大学と共同研究を実施する	0.40	目標はほぼ達成できた。 ・和文原著を1編掲載し、英文原著1編を投稿中である。 ・国際学会発表（6編）、国内学会発表（6編）を行った。 ・科研費1件の助成を受けた（継続研究分担者）。新規に、科研費を含む3つの助成金に応募したが、採用されなかった。その他1件、ヒヤリングが済み、現在結果待ちである。今後、助成金獲得に向けてさらなる努力が必要である。 ・山口大学1件（継続）、日本赤十字秋田看護大学1件（新規）について、遺伝看護の協同研究を実施した。
社会貢献	0.03	・地域における関連部署、担当者と連携を図る ・講演等の要請があれば、積極的に応じる	0.09	目標は達成できた。 ・「沖縄県発達障害児（者）看護を推進する会」設立に向け、自閉症児の保護者、教員、学生による勉強会を月1回継続実施している。 ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリーアプローチ（M-GTA）の第8回公開研究会（全国規模）を主催し、引き続き、ワークショップを2回企画、実施した。 ・附属病院看護部の看護研究指導を行い、学会発表の準備に協力した。
管理運営	0.07	・母子看護学講座主任としての責務を果たす ・予算委員会委員、入試委員会委員の責務を果たす ・日本看護系大学協議会、大学院検討委員会委員の責務を果たす	0.09	目標は達成できた。 ・所属講座主任としての責務を果たし、目標は達成できた。 ・予算委員会委員、入試委員会委員の責務を果たし、目標は達成できた。 ・所属分野長として、所属内助教の研究・論文指導を行い、国際学会発表、論文投稿に繋ぐことが出来た。 ・日本看護系大学協議会、大学院検討委員会委員については、今年度より委員を交代した。
進路指導	0.10	・4年次の指導教員として、学生指導・相談に臨む ・進学、就職の個別相談に応じる ・必要に応じて推薦書を作成する	0.02	目標は達成できた。 ・4年次の指導教員として、学生指導・相談の役割を果たし、卒業研究発表の運営に協力した。 ・進学、就職の個別相談に応じ、報告を受けた。 ・奨学金申請に係る推薦書を作成した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　　□　学内公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	小林潤	所　属	国際地域保健	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度 年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	参加型学習法をとりいれた大学院・学部教育に取り組み、担当科目の専門知識の伝達だけでなく、学生の意欲向上を狙う。	0.35	大学院「国際保健概論」「アジア太平洋の保健医療」学部「保健医療福祉政策論」「母子国際保健論」では参加型学習法を取り入れ考える力をつける教育を実践した。特に大学院教育では効果を現時点でも評価できると考える。学部教育は今後の評価が必要。
研究	0.30	継続研究4課題については、研究結果の分析と研究成果公表に取り組む。またアクションリサーチを実施している2課題については社会貢献活動と連携して成果を上げる。新規採択3課題については、研究実施体制を整えるためにこれまでのネットワークだけでなく琉球大学学内ネットワークでの体制を構築する	0.25	継続して行ってきた研究については、今年度すでに国際英文誌へ原書論文4編が採択され、現在1編が審査中であることから計画以上に成果が得られている。琉球大学内ネットワークでは熱帯生物圏研究所との共同研究に成果がみられている。今後は学科内の横断的研究協力体制構築を検討計議したい。
社会貢献	0.20	教育・研究活動と連携して、ビルマ難民支援活動、ラオス保健・教育支援についてNGO活動を展開する。ビルマ難民支援活動については沖縄に本部を設置する。また国際学校保健コンソーシャム（理事長）、熱帯医学会（国際担当理事）として貢献する。	0.15	NGO活動と学部教育活動を連携させることができ効果が得られた。国際学校保健コンソーシャム活動はアジア地域の国際的宣言のドラフトがシンポジウム実施によってできるなど大きな成果が得られている。学会への貢献として先進国だけでなく、アジア新興国とのネットワーク強化に成果を得ている。
管理運営	0.15	国際地域保健講座の教育・研究・社会貢献活動についての実施体制を整えるとともに、講座構成員および大学院生・担当学部学生の研究マネージメントを行う。大学院教育強化等を通じた大学の管理運営の向上に協力し、国際保健関連機関とのネットワーク構築を開始する。	0.20	大学院講義に国立国際医療研究センター、長崎大学、東京大学、地球総合環境学研究所から非常勤講師を招聘し、研究科としてのネットワーク構築ができ、今後の大学院の外部諮問委員の設立等を考慮する準備が整った。教室は来年度の大学院生の受け入れ体制は最低限整ったが、研究能力のある教官採用等、教室内を含めて講座・看護コース内の大学院教育強化が残る課題と考える。
進路指導	0.05	国際保健分野を志望する学生のコンサルテーションを実施し、適切な進路選択を促す。	0.05	学部3年次1名、2年次1名の国際保健分野に興味がある学生の指導を開始した。今後これらを核に学生中心の自主的ネットワーク構築を後押しすることによって進路選択を指導していく。保健医療従事者全てが可能となる進路ではないので少数精鋭の指導を考慮している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	與古田孝夫	所　属	医学部保健学科精神看護学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開 ・教育補助者の有効活用と資質の向上	0.30	・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものついては，研究で得られた知見を提示した。指導する大学院前期課程1年次学生1名をTAとして活用し，授業法の教授並びに研究指導法について助言を行った。 ・開講授業の評価は，前期の精神看護学89.9点であり，教育領域の目標は達成できたと考える。
研究	0.40	・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表 ・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表	0.40	・原著論文3編(共著)が学術誌に掲載された。 ・9th International Nursing Conference & 3rd World Academy of Nursing Science（Korea)において、大学院生を含め4演題の国際学会発表を行った。 以上のことから，研究領域の目標は達成できたと考える。
社会貢献	0.15	・学外の委員会等への参画 ・学外研究会の運営・参画 ・学外における講演、研修会における社会貢献 ・学外教育機関への教育支援	0.15	・西原町及び中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた. ・西原町障害者介護給付認定審査会の委員長を務めた. ・沖縄ED研究会代表世話人として企画・運営にかかわった. ・医療法人おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院非常勤講師として、人間発達学の講義を担当した。 ・琉球大学医学部附属病院看護部協働による看護研究活動の企画・運営，研修会講師を務めた。 ・沖縄県介護審査会委員を務めた。 以上のことより、社会貢献領域の目標は達成できたと考える。
管理運営	0.10	・全学及び所属部局における委員会における貢献 ・所属学科等の管理運営における貢献 ・入試関連業務における貢献	0.10	・男女共同参画委員会の委員を務めた。 ・保健学研究科学務委員長を務めた。 以上のことより、管理運営に係る目標は達成できたと考える。
進路指導	0.05	・進路指導・就職支援に向けた学生指導	0.05	・1年次指導教員として学業及び進路・就職等，学生生活全般にわたる指導・助言を行った。 ・指導する学生，院生の進路指導，就労支援に関して指導・助言を行なった。 以上のことより，当該の目標は達成できたと考える.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中尾浩史	所　属	医学部保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学生の理解を深めるために、適切な課題を与えつつ、より良い講義を目指す。具体的には、国家試験を最低レベルとし、臨床検査の現場における様々な問題点について考察させることを考えている。4年生については計画的に国家試験の対策を行う指導する。	0.25	講義においては目標は達したと考えている。次年度もより良い講義を目指していきたい。講義や研究室のゼミにおいて、大学院の重要度、研究のおもしろさなどを説いた結果、今年度は2名の学生が保健学科の博士前期課程に進学することとなった。
研究	0.20	昨年度から引き続き、沖縄県の生物資源の検索と腸炎ビブリオの鉄獲得機構の解明、ミトコンドリア毒性の解明などを行い、学会発表や論文発表を行う。生物資源の探索については、沖縄県または県内企業からの外部資金の獲得を考えている。	0.25	概ね順調であり、欧文1報、和文1報を発表した。今泉助教を米国コネティカット大学へ留学することとした。紅麹からの新規抗菌活性物質の構造が部分的に決定でき、全構造を解明するのも近い。また、新たな生理活性物質候補も見出している。
社会貢献	0.10	沖縄の持つ生物資源と自分の研究を結びつけることにより、地域貢献を図る。 また、昨年度と同様、臨床検査技師会の研究会に積極的に出席し、現場の情報を得て、それを実際の教育に生かしていくつもりである。	0.15	順調である。研究の項目に記述したように、紅麹から見出された新たな生理活性物質の解明が進んでいる。技師会研究会への参加し、意見の交換を行った。技師会との連携を強める必要性を感じ、技師長との懇談会を開く予定である。
管理運営	0.35	保健学科のみならず、全学・医学部の委員会について、それぞれの立場・現状を踏まえ、最善を尽くす。また、今年度は検査技師コース長になっていることから、ミッションの再定義について、学科長をサポートする。	0.30	順調である。今年度はミッションの再定義もあり、臨検コース長として最善を尽くした。また、上述した様に沖縄県技師会との連携を強めるため、沖縄の主要病院の技師長との懇談会を2月19日に開催するよう計画している。
進路指導	0.05	学部学生については、保健学科の卒業生の幅広い職種の可能性について講義または懇談会を通じて説明し、病院のみが就職先ではないことを指導する。4年生に対しては、病院のみならず、県内外の企業、公務員などの就職に関する情報を知らせる。	0.05	病院・会社からの募集を速やかに掲示した。また、全学就職委員会にて上原地区への就職案内の職種が看護・検査技師のみであったので、他業種の募集も案内するよう要望した。また、大学院の重要性が将来増すことを学生に説いた結果、当研究室より2名が保健学科博士前期課程に進学することとなった。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平井　到	所　属	医学部保健学科病原体検査学分野	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。	0.30	おおむね目標は達成できたと考えられる。
研究	0.30	日本学術振興会の科学研究費の獲得、複数の論文投稿、国際、国内学会での発表を行う。	0.30	来年度以降の科学研究費獲得に向け複数(研究代表者として3課題、研究分担者としても複数)の申請を行った。また、本年度中に1編の論文が掲載され、その他論文は審査中となっている。国際学会の発表1回、国内学会の発表2回などであり、目標はおおむね達成できたと考えられる。
社会貢献	0.10	地球規模課題対応国際科学技術協力におけるベトナム研究者への技術移転を行う。	0.10	本年度は遺伝子増幅に関する教育コースをベトナムハノイで行い、ベトナム人研究者に対して分子生物学に関する技術供与を行うことができたため、おおむね目標は達成できたものと考えられる。
管理運営	0.10	医学部、医学部保健学科における委員会への積極的な取り組みを行う	0.10	海外出張や講義などによる欠席のほかは積極的に取り組むことができた。
進路指導	0.20	1年次生の指導教員であるため、卒後自立していかなるものにも取り組める医療人を目的とした今後4年間続く学習へ積極的に取り組めるよう、進路指導を行う。	0.20	おおむね目標は達成できたと考えられる。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。

（別紙１） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	尾尻義彦	所　属	医学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	・インターネットWebclass（ICT）による授業の実施 ・学生実習の効率化と充実を図る ・卒業研究の指導 ・公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」の実施 ・公開講座「ミニトランポリン運動の健康科学講座」の実施 ・出前講座「ディスタンスランニングの科学講座」の実施	0.35	目標はすべて達成された。
研究	0.30	・子供の土踏まず形成と身体活動の関係に関する研究 ・ミニトランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究 ・高齢者の歩行機能回復トレーニングに関する研究	0.20	子供の土踏まずに関する研究と高齢者の歩行機能に関する研究は、諸般の事情により実施できなかった。ミニトランポリンの研究は、生理学的な運動強度の実験を行った。
社会貢献	0.20	・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導 ・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援 ・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援 ・ミニトランポリンによる健康運動の啓蒙・普及	0.25	目標はすべて達成された。
管理運営	0.10	・講座連絡会の運営 ・大学入試センター試験監督 ・オープンキャンパスの準備・運営	0.15	目標はすべて達成された。
進路指導	0.05	・オフィースアワー等における進路指導	0.05	目標はすべて達成された。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	☐　学外公表に同意しない。　☐　学内公表に同意しない。

血液免疫検査学分野

（別紙１） 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成２５年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）				
名　　前	福島卓也	所　　属	医学部保健学科	職　　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成25年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成25年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学生に対する研究指導 ・博士課程学生に対する専門教育	0.30	左記の業務を遂行した。
研究	0.30	・科学研究費補助金による研究 ・厚労省科学研究費補助金分担者としての研究 ・論文投稿 ・ATL対策研究拠点構築事業の研究	0.30	左記の研究活動を継続して行い、成果を得た。
社会貢献	0.06	・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動 ・日本血液学会九州地方会評議員としての活動	0.05	左記の業務の他、日本血液学会評議員、日本造血細胞移植学会評議員として活動した。
管理運営	0.30	・保健学科長としての仕事 ・医学部広報委員会委員 ・琉球医学会誌編集委員 ・医学部将来計画委員会委員	0.33	左記の業務の他、組織見直しプロジェクトチームの委員として大学の運営の業務にも携わった。
進路指導	0.02	・地域検査技師との交流・情報収集	0.01	検査技師による血液形態カンファランスに参加した。
診療	0.02	・医学部附属病院血液内科外来担当	0.01	医学部附属病院血液内科外来を担当するとともに、2014年1月から病棟のカンファランス・回診に参加した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内公表に同意しない。